

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

⌚ Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 皿
Room2301(Education and research building block2 3F 2301)

[1a1802-04] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表③

Chair:Yoshifumi Tanaka

3:30 PM - 3:50 PM JST | 6:30 AM - 6:50 AM UTC

[生涯スポーツ-A-07]

スポーツの実施意向，職場での取組，参画状況がWell-beingに及ぼす影響に関する基礎的研究
(測,教,政)

「スポーツの実施状況等に関する世論調査」のデータを活用して

*SEIGO NAKAYAMA^{1,2}, Ryoji Tahara³ (1. Sports for Health Division, Japan Sports Agency, 2. Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University, 3. Department of Human Sciences, Seinan Gakuin University)

3:50 PM - 4:10 PM JST | 6:50 AM - 7:10 AM UTC

[生涯スポーツ-A-08]

Transformation of Social Connections and Subjective Well-Being Among University Students
in the Digital Society (社)

An Exploratory Analysis of Physical Education Students at Chinese Universities

*FANGZHOU ZHANG¹, Takafumi Kiyomiya¹, Mitsuyo Yoda¹ (1. Nippon Sport Science University)

4:10 PM - 4:30 PM JST | 7:10 AM - 7:30 AM UTC

[生涯スポーツ-A-09]

アダプテッド・スポーツの観点を地域の防災コミュニティ形成に活かす可能性に関する検討
(ア)

下馬・野沢×日大 防験（防災体験）＆スポーツフェスを通して

*Katsuyuki Kondo¹ (1. Nihon University)

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

🌱 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 🏠
Room2301(Education and research building block2 3F 2301)

[1a1802-04] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表③

Chair:Yoshifumi Tanaka

3:30 PM - 3:50 PM JST | 6:30 AM - 6:50 AM UTC

[生涯スポーツ-A-07] スポーツの実施意向，職場での取組，参画状況がWell-beingに及ぼす影響に関する基礎的研究（測,教,政）

「スポーツの実施状況等に関する世論調査」のデータを活用して

*SEIGO NAKAYAMA^{1,2}, Ryoji Tahara³ (1. Sports for Health Division, Japan Sports Agency, 2. Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University, 3. Department of Human Sciences, Seinan Gakuin University)

本研究は、運動・スポーツが人々の幸福感および充実感といったWell-beingに及ぼす影響を明らかにするための基礎資料を得ることを目的とした。具体的には、「運動・スポーツの実施意向」、「職場における運動・スポーツ推進」、「スポーツの参画状況（する・みる・ささえる）」の三つの側面に焦点を当て、Well-beingとの関係性を検討した。なお、本研究では、「令和6年度スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁，2025）の二次データを使用した。分析に用いた主な項目は、「幸福感、日常生活の充実感、スポーツ実施希望頻度、職場における運動・スポーツの取組、スポーツ参画状況」とした。なお、幸福感と日常生活の充実感を合わせた得点をWell-being得点として分析を行った。主な結果は以下の通り。

1. スポーツ実施頻度および実施希望頻度がともに週1日以上である群は、他群よりWell-being得点が高い結果を示した。また、週1日以上実施できていない場合でも、実施希望頻度が週1日以上である群は週1未満の群よりも有意に高い結果を示した。
 2. 職場における運動・スポーツの取組では、取組がない群が有意に低く、取組が1個の群よりも2個以上の取組がある群が有意に高い結果となった。
 3. スポーツ参画状況では、3つすべてに参画している群（するみるささえる群）が有意に高く、次に2つが重なっている群（するみる群、するささえる群等）、1つのみの群（するのみ群、みるのみ群等）、非参画群の順にWell-being得点が高い結果となった。
- これらの結果から、運動・スポーツの実施意向や職場での運動・スポーツの取組、スポーツの参画状況がWell-beingに影響を及ぼしている可能性が示唆された。

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

🌱 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 🏠
Room2301(Education and research building block2 3F 2301)

[1a1802-04] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表③

Chair:Yoshifumi Tanaka

3:50 PM - 4:10 PM JST | 6:50 AM - 7:10 AM UTC

[生涯スポーツ-A-08] Transformation of Social Connections and Subjective Well-Being Among University Students in the Digital Society (社)

An Exploratory Analysis of Physical Education Students at Chinese Universities

*FANGZHOU ZHANG¹, Takafumi Kiyomiya¹, Mitsuyo Yoda¹ (1. Nippon Sport Science University)

【背景】近年、AI技術の急速な普及は「第四次産業革命」とも称され、教育・福祉・スポーツの現場にも浸透している。大学生の間でもAIツールの活用が広がる一方、その使用が主観的満足度や社会的つながりに与える影響は十分に解明されていない。ソーシャル・キャピタル（SC）の水準がAIの社会的受容や主観的満足度に関与することが示されており、AI利用自体が信頼構造を再構築する双方向的作用を持つとも指摘されている。さらに、経済成長（GDP）と満足度が必ずしも連動しない「イースタリンのパラドックス」も近年中国で注目されており、AI時代においてSCの質が人々の幸福を左右する重要な要素となりつつある。

【目的】本研究では、中国の体育系大学生を対象に、SCを結合型・橋渡し型および認知的・構造的に類型化した上で、SC水準とAIツール活用、主観的満足度との関連性を分析し、SCがAIと主観的満足度の関係を媒介する経路を明らかにすることを目的とする。

【方法】中国の体育系大学生が所属する5大学を対象に質問紙調査を実施した。EFAおよびCFAによりSCの下位因子を抽出し、クラスター分析によりSCを3類に分類した。続いて、SC・AIツール活用・主観的満足度の相関分析と回帰分析を行い、ブートストラップ法を用いて媒介分析を実施した。

【結果】媒介分析の結果、低結合型SCは、AIツール活用がSCを通じて主観的満足度を有意に低下させる負の間接効果が確認された。高結合型SCを有する学生では、AI利用とSCの関連が有意に負であるものの、SCから主観的満足度への効果が有意に正の効果を示した。また、橋渡し型SCに媒介効果は認められなかった。今後は、市民参加型のデジタル技術プラットフォーム（ビッグデータ）におけるデジタル公共圏の形成に関する可能性を検討する必要がある、縦断分析の併用も今後の課題となる。

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

📅 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 📍
Room2301(Education and research building block2 3F 2301)

[1a1802-04] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表③

Chair:Yoshifumi Tanaka

4:10 PM - 4:30 PM JST | 7:10 AM - 7:30 AM UTC

[生涯スポーツ-A-09] アダプテッド・スポーツの観点を地域の防災コミュニティ形成に活かす可能性に関する検討（ア）

下馬・野沢×日大 防験（防災体験）&スポーツフェスを通して

*Katsuyuki Kondo¹ (1. Nihon University)

N大学Sキャンパスには、危機管理学部とスポーツ科学部があり、それぞれの学部の特徴を活かした地域連携事業を展開している。その一環として危機管理学部Aゼミは、学生が町の防災を考え、実際に町歩きを行うという一連の企画を立ち上げ実践することにより、幅広い年代の住民との触れ合いのノウハウを学んだり、実学としての防災に対する企画力が醸成されるような活動を行ってきた。2023年度、AゼミではSキャンパスのあるU地区において学生が企画した防災ツアーを行った。一方でスポーツ科学部Bゼミでは、世田谷区を中心として、多様な人々が一つのスポーツに参加できるアダプテッド・スポーツの特色を生かした取り組みを行ってきた。

今回、両学部協働によるアプローチを用いて、地域住民の防災意識を高めることと、平時の地域コミュニティをスポーツによって活性化させることを目指した「防験（防災体験）&スポーツフェス」を行った結果を分析し、アダプテッド・スポーツの射程の広がりに関する議論を行うことを目的として本発表を行う。

本研究では、参加学生ならびに参加者に対するインタビューを実施し、参加学生と参加者の発話内容を用いた質的な分析方法を用いた。

参加学生の発話内容からは、事前検討していた以上に、紙風船バレーボールの実施が、参加者同士のコミュニケーションを活発化させていた様子を捉えることができた。参加者からも、紙風船を作成する過程から、どのようにしたら上手く作成できるかなど、参加者同士で会話が弾み、実施に行った紙風船バレーボールでも協力しながら楽しめた様子がうかがえた。

これらのことから、アダプテッド・スポーツの観点をを用いた地域コミュニティ形成を考える上では、スポーツをお互いにつくりあげながら実施するという内容が含まれることが効果的であると考えられた。